

高校

自作お手本^{利用}

科学的なスポーツ習得学習への活用事例

概要

- 筑波大学附属坂戸高校 3年生 14名を対象に藤原亮治教諭の授業「体育を科学する」において見ん者®を活用。
- 2名で一台のタブレットを共有。7組の生徒が興味のあるスポーツを決めて半年間取り組んだ。
- テレビ、YouTube動画等から取り込んでお手本を自作して使用。

授業の流れ



計画

まず生徒は二人一組になり、半年間取り組みたいスポーツを決定。その際、部活動等で取り組んでいて既に得意な競技でないものを対象とした。選んだスポーツはサッカー、バスケット、砲丸投げ、バドミントン、走り幅跳びなど多様。

お手本作成

各チームで、テレビ録画あるいはYouTube動画等から有名選手などによるお手本動画を選び、お手本を自作。

実践

生徒たちは半年にわたる授業において繰り返し動画撮影・比較を実施。スパイラル的に技術を向上させていきました。

成果発表

半年間見ん者を利活用した結果、無回転シュート実現、フリースロー成功率向上など目に見える効果を得ました。パワーポイント資料を作成し、成果発表会を開催、生徒が発表をしました。

得られた効果

お手本を自作



正しい動作のポイントについて深く考察。
副次的効果: ICT能力の向上。

動作の撮影とお手本との比較



自分の運動動作を客観的にとらえ、動作習得を実現。

半年間の繰り返して継続的な活用



上達の確認ができ、モチベーションのアップ。

目に見える効果



無回転シュート実現、砲丸投げ距離向上、
フリースロー成功率向上など。

